



復興庁

Reconstruction Agency

第3号

平成24年7月発行

復興庁気仙沼支所

気仙沼市笹が陣3-5

気仙沼市シルバー人材センター内

つちおと



◆急ピッチで作業が続くBRTの専用道路。 ◆8月20日、柳津～気仙沼での暫定運用を開始するとJR東日本。 ◆階上～最知の2.1km区間は専用道、他の区間は一般道を走行する。 ◆今後、年内に予定される本格運用までに、専用道の区間拡大、最新車両の導入をしてゆくという。 ◆鉄路の被災で不便を強いられている方々は心待ちにしていることでしょう。

◆梅雨が明け、2年ぶりとなる気仙沼みなとまつりが目前です。私事ながら、ここ十数年まつりに参加しており、昨年の震災による休止はやむを得ないとしても、今年こそはと思っていましたが、野暮用と重なってしまったため、また参加が叶いません。まつりの盛り上がりで市民の絆が強まり、復興に弾みがついてくれればところから祈ります。

◆新しいまちづくりに「住民合意」は欠かせません。先日来、災害危険区域の設定、防潮堤・河川堤防の計画説明、高台移転の個別相談等々、事業主体等による合意形成に向けた努力が続けられています。より多くの方々、特にこれから地域を背負ってゆく若者が存分に意見を交わしながら、自分たちで地域の将来像を描き、実現に向けて活動することが大事です。「お仕着せのまち」に誇りや愛着は芽生えるのでしょうか、みなさんはどのように思いますか？

◆7月2～3日、気仙沼市ならびに南三陸町復興整備協議会が県庁で開催され、気仙沼では大浦地区など9地区156戸(前回と合わせ、14地区417戸)、南三陸では3区91戸の防災集団移転促進事業に同意が得られました。円滑に事業が進むよう、復興庁は支援を続けて参ります。

◆つちおとは月刊を基本としてスタートしましたが、いきなり6月を不発としてしまいました。言い訳にすぎませんが、復興交付金の第3回目の申請に向けて、関係市町の方々と支所スタッフは、天手古舞いの日々を送っていたのでありました。何卒お許しください。(山)



◆ すばらしい歌津をつくる協議会会長小野寺寛さんに聞く

今回は、歌津地区を中心に活動をなさっているすばらしい歌津をつくる協議会会長の小野寺寛さんへのインタビューです。

—すばらしい歌津をつくる協議会はいつごろ発足したのですか？

昭和30年代に生活改善運動を推進する団体として、町の補助を受けて「新町民生活運動協議会」として発足したことが始まりです。その後、昭和50年代に名称を「すばらしい歌津をつくる協議会」に変更して今日に至っています。現在の会員数は58名です。

—すばらしい歌津をつくる協議会はどのような活動をされているのですか？

国道や集会所などに植える花の苗を配布する花いっぱい運動、海や川の清掃活動などを行う自然保護活動、冠婚葬祭簡素化の啓発活動、防災訓練などを行う安全安心の地域づくりや各種の研修会などを行っています。加えて、震災以降は、「絆」Tシャツ、ハンドタオル、帽子、ストラップなどのグッズ販売などにも取り組んでいます。

また、昨年から会報「一燈」を発行し、毎月定例会を開催しています。会報や活動の様子はホームページでも御覧いただけます（すばらしい歌津をつくる協議会ホームページ <http://utatsu.jimdo.com/>）。

—震災以後、地域にどのような変化が起きていると感じていますか？

震災により、住民は避難所での生活を送り、その後、仮設住宅やみなし仮設などでの生活を送るようになり、歴史と伝統の相互扶助の組織である、地元で言う「契約講」「部落会」などの地域コミュニティが崩れているように感じています。

—会長として御尽力されていることと存じますが、今この地域に何が一番必要だと感じていますか？

みんなで新しいまちをつくろうという共通の目標を持って南三陸町民としての一体感を共有することが必要だと感じています。

—この地域には、各方面から様々な支援が寄せられていますが、印象深い出来事などがありましたらお聞かせください。

震災後、さわやか福祉財団から支援をいただいていることです。震災直後に湯たんぽや配布しやすいようサイズ別に分けていただいた状態の下着を送っていただいたり、また、小学校が修学旅行に行く前に修学旅行の日程に間に合う下着を送っていただいたこともありました。その後も現在に至るまで、さわやか福祉財団から何か必要なものはありませんかと問い合わせをいただき、何度も支援いただいています。

—復興庁(気仙沼支所)に対してひとことお願いします。

現場の声を大切にされた復興と、スピード感を持って国や県からの支援制度を正しく分かりやすく伝達してほしいと思います。

* 右の写真は週1回、皆さんが集まって製作されているストラップです。



東日本大震災事業者再生支援機構の紹介

東日本大震災による被害により、過大な債務を負っている事業者の方々であって、被災地域で事業の再生を図ろうとする事業者の方々に対して、金融機関等が有する債権の買取り等を通じ、債務の負担を軽減しつつ、その再生を支援することを目的として、平成24年2月22日に東日本大震災事業者再生支援機構が設立し、活動しています。

東日本大震災で受けた被害により過大な債務を負っている事業者の方々に、対象地域（気仙沼市及び南三陸町は含まれます。）において事業の再生を図ろうとする事業者（①大企業、第三セクターは対象外です。②小規模事業者、農林水産事業者、医療福祉事業者は重点的支援対象です。③産業復興機構が支援することが困難な事業者の方々も対象です。）は、東日本大震災事業者再生支援機構からの支援の対象となります。

また、設立後から6月15日までの数か月間に、説明会・相談会の開催や金融機関等への訪問を累計402回、相談件数は累計366件に上り、7月12日時点で支援決定が5件、最終調整中が51件となっています。

お問い合わせ・相談は

東日本大震災事業者再生支援機構 仙台本店

022-393-8808（代表）

<http://www.shien-kiko.co.jp/index.html>

とぴっくす

支所管内のとおきの話題を
紹介します。。

《キッズROOM「おひさま」開園》

「おひさま」は、震災で全壊した南気仙沼幼稚園の元職員のみなさんが運営する保育園です。保護者から再開を熱望され、借用した倉庫で昨年5月に開設されました。その窮状を知り支援に乗り出したのは、被災直後から気仙沼市内の国道の応急復旧工事やボランティア活動を行っていた、山形県長井市的那須建設的那須猛会長。約4千万円かかる園舎建設の無償支援を申し出ました。園舎敷地も地主さんの好意で借りることに。

そのようなたくさんの支援を受けて、7月14日に素敵なお新園舎(市内茗荷沢)の落成式が行われました。

式では、里見栄美理事長から支援に対する感謝の気持ちと震災で亡くなった南気仙沼幼稚園理事長で叔母でもある”ばあちゃん先生”に涙ながらの「決意」が述べられ、感動的な式となりました。当支所にもご案内をいただき、うれしそうにはしゃぐチビッ子、その様子に目を細める保護者の皆さんの姿にまた感動。心に残る一日になりました。



明るくきれいな新園舎



チビっ子の夢をのせて

《社会イノベーター公志園ほか》

7月21日・22日、復興支援イベントとして開催された「社会イノベーター公志園決勝大会」、「創造的復興フォーラム」、「東北マルシェ&TUBE 復興応援野外ライブ」は、被災地に大きな元気、勇気を与えてくれたとの声が聞かれました。どの企画にも多くの方々が集まり、震災からの復興を被災地内外から考える素晴らしい機会になったのではないのでしょうか。



宮城復興局発行「復興だより」の紹介

宮城復興局では宮城県内の復興に関する情報を皆様にお知らせするために「復興だより」を発行しています。
御覧になる場合は、下記URLにアクセスいただくか、インターネット等の利用が困難な方は気仙沼支所までお問い合わせください。

(「復興だより」第6号のラインナップ)

- ・郡政務官からの御挨拶
- ・関係機関の取組（復興大学の開設、被災地域情報化推進事業の交付の決定、被災地での企業と人材育成の支援等）
- ・本紙（「つちおと」）の紹介
- ・防災集団移転促進事業の事業計画等を盛り込んだ復興整備計画をはじめとする震災復興関係の計画策定等に関する動向

(「復興だより」URL)

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/2012/05/000817.html>



クロスワードにチャレンジ!!!

答え「大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとなる復興道路」

『 ① ② ③ ④ ⑤ う 』

タテのヒント

- 1 龍舞崎がすぐそこに見えます。階上地区の〇〇〇〇〇。
- 2 宮城の牡蠣養殖の祖は「内海 庄〇〇〇〇」と言われています(人名です。)
- 3 「つちおと」のお〇〇あわせは気仙沼支所まで。
- 4 目的地に着いてすぐに引き返すこと。「とんぼか〇〇」
- 7 煙でいぶして作ります。「〇〇〇い」
- 9 くだりはらくらく。のぼりはつらい。



ヨコのヒント

- 1 歌津地区で営業中! 〇〇〇〇〇復興商店街
- 5 英語を日本語に訳すときは英和辞典、日本語を英語に訳すときは〇〇〇辞典。
- 6 さつま、男爵、コンニャク
- 8 志津川地区で営業中! 南三陸〇〇〇〇商店街
- 10 水星、金星、地球、〇〇〇、木星...



【編集後記】

◆夏本番はこれからかと思いますが、夏を感じさせる暑さに出会う日が多くなってきました。私も現地調査等では心がけていますが、皆様も日中に屋外で作業をなさる場合は、水分補給等にお気をつけください(鈴)



前号のクロスワードの回答

答え「気仙沼支所では、皆様の『マ チ ツ ク リ』

をお手伝いします。」

タテのヒント

- 1 気仙沼市の観光キャラクター
- 2 気仙沼市の木はクロ〇〇
- 3 奥州藤原氏も信仰した霊峰〇〇〇〇山
- 4 古いお寺
- 6 舞台の〇〇明け
- 8 さわると唐そう、〇〇ネズミ
- 9 復興マールシェがあるのは気仙沼市なみな〇〇よう

ヨコのヒント

- 1 南三陸町の名物〇〇〇〇
- 5 徳仙天山で今が見ごろ
- 7 わたし、〇〇、よし
- 8 ねぶた祭り編り子
- 10 イモリではありません



真新しい漁船が鹿折に停泊し、漁の準備をしていました
LEDの集魚灯を装備したカッコイイ船でした。



「つちおと」発行元（お問い合わせ先）

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所

電話 0226-23-5301

FAX 0226-23-5310

復興庁ホームページ

<http://www.reconstruction.go.jp/>